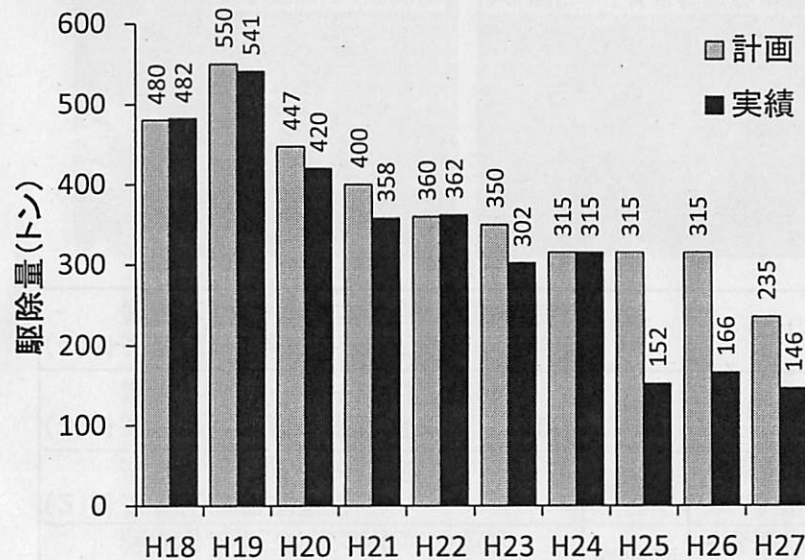


# 琵琶湖における外来魚の生息量について

環境・農水常任委員会資料  
平成28年(2016年) 9月14日  
農政水産部水産課

琵琶湖における外来魚生息量は、これまでの継続的な取組により平成25年まで減少傾向にあったが、これ以降に得た新たなデータをもとに解析した結果、平成25年を境に生息量が増加に転じるとともに平成27年の生息量は1,240トンと推定された。

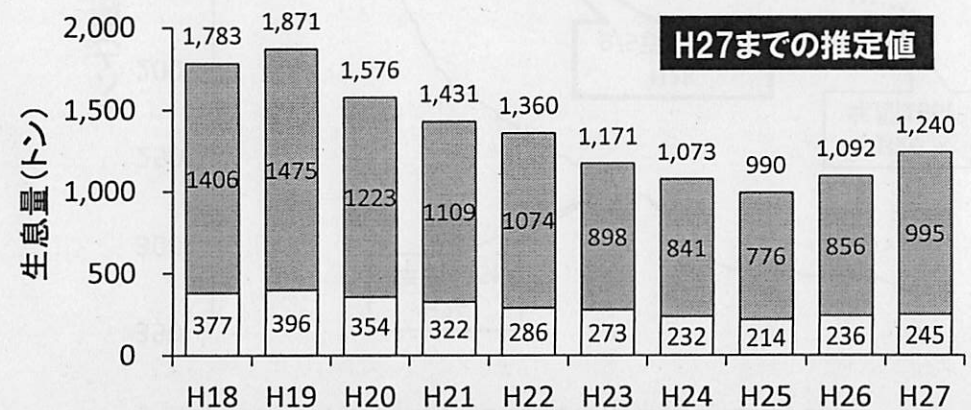
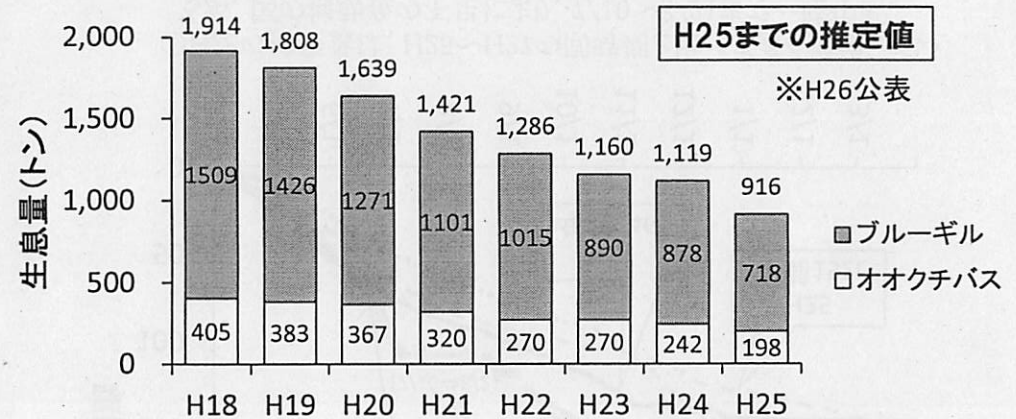
## 1. 外来魚駆除促進対策事業の経過



- 平成24年までの駆除量は、概ね計画量を達成。
- 一方、平成25年以降の駆除量は、計画を大幅に下回る状況。
- この原因は、主に以下の理由による。
  - ①梅雨時期の少雨による外来魚の活性の低下(H25,26)
  - ②台風による漁具の損壊(H25)
  - ③水草の異常繁茂による捕獲作業への支障(H26,27)
  - ④国補助金の減額による事業の中断(H27)

## 2. 外来魚生息量

- 今回の解析では、平成25年を境に生息量が増加に転じたことが判明。
- 平成25年以降の駆除量の減少が、生息量増加の原因と推測。



※水産資源の解析手法であるコホート解析を適用。  
※同じ年生まれの外来魚の生息量を、順次、年齢分だけ過去に遡って計算し直すため、推定値は前回のものとは異なる。

### 3. 今年度の外来魚駆除の取組

- 駆除目標を245トンと設定して、以下の取組を実施。
- 今年度から、操業禁止期間や冬季などの駆除が低調となる時期に、県が漁船を傭船し主導的に駆除を行う「外来魚駆除フォローアップ事業」を新たに追加。

有害外来魚ゼロ作戦事業(駆除目標)	実施主体	事業費(千円)
(1)①駆除促進対策事業 (200t) 漁業者による既存漁法による駆除	県漁連	76,000 (県費38,000)
②繁殖抑制対策事業 (600万尾) 漁業者による外来魚稚魚の駆除	県漁連	2,400 (県費1,200)
(2)外来魚回収処理事業 外来魚の回収・有効利用	県漁連	18,780 (県費7,120)
(3)外来魚産卵期集中捕獲事業 (10t) 電気ショックカーポートによる駆除	県	6,300
(4)外来魚駆除フォローアップ事業 (35t) 傭船により県主導で行う外来魚駆除	県	6,515



既存漁法による駆除



タモ網による外来魚稚魚の駆除

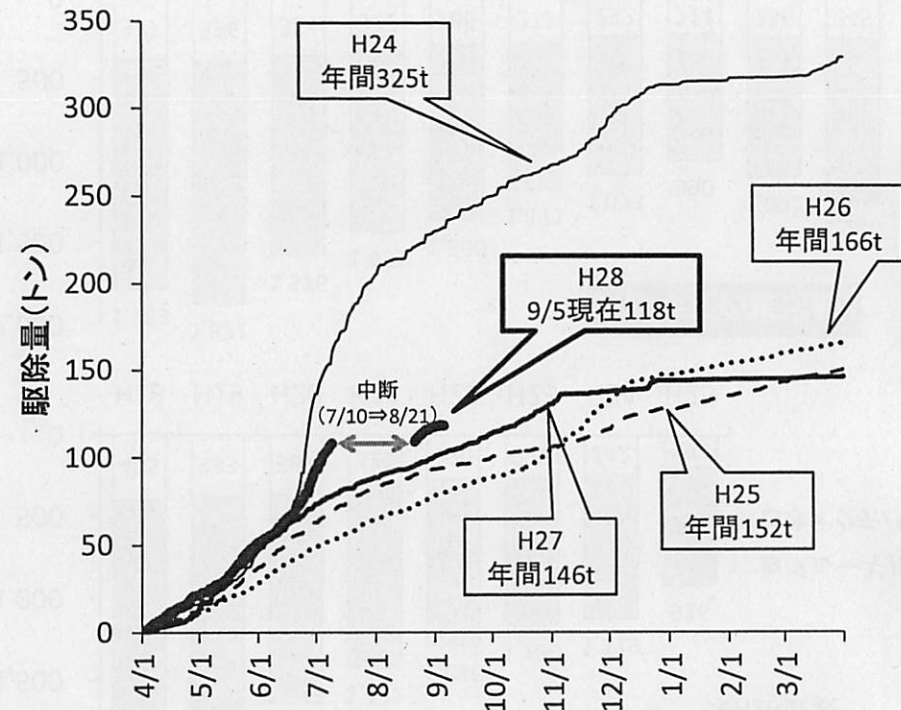


電気ショックカーポートによる駆除



漁船を傭船して行う駆除

### 4. 今年度の外来魚駆除促進対策事業の進捗状況



○H28の捕獲量は、H25～H27の同時期と比べて多く推移しているが、国の補助金の不足により、7/10～8/21まで一時中断。

### 5. 今後の対応

- 県農業・水産業基本計画に掲げる外来魚生息量の目標値(平成32年度600トン)の達成に向け、駆除量の計画を見直し、これを達成できるよう必要な予算を確保するとともに、琵琶湖保全再生法に基づき、国に対して十分な支援が得られるよう要望中。
- 捕獲状況に応じて、傭船による積極的な駆除を行うなど、効果的な取組を実施。